

テルモ・コモカーディオTDカテーテル

現在、サーモダイリユーシオンカテーテルは心臓カテーテル検査（心カテ検査）のほか、術中・術後の患者管理にもよく用いられる。比較的簡単に右心房圧、右心室圧、肺動脈圧、心係数、一回心拍出量、一回心係数、肺血管抵抗、末梢血管抵抗、一回仕事係数など多くの情報が得られるため、使用頻度は年々増加している。

手術室やICUでは高度の患者監視が必要とされ、最近では心拍数、心電図、末梢動脈圧、中心静脈圧、呼吸モニター等のモニタリングがルーチンに行われている。しかし、さらにハイリスク症例では肺動脈楔入圧や心拍出量測定による心ポンプ機能の評価が有用である。

心拍出量の測定方法として、Fickの方法や色素希釈法、インピーダンス法、超音波ドップラー法等、幾つかの方法があるが、

- 1) X線透視を必要としない
- 2) バルーンにより心内膜への刺激が少ない
- 3) バルーンを空気により膨張させることで肺動脈楔入圧が容易に測定できる

等の理由で、熱希釈法を用いたサーモダイリユーシオンカテーテルによるモニタリングが現在最も多く用いられている。

今回、テルモ株式会社によって国産初のサーモダイリユーシオンカテーテルが商品化されたので紹介する。

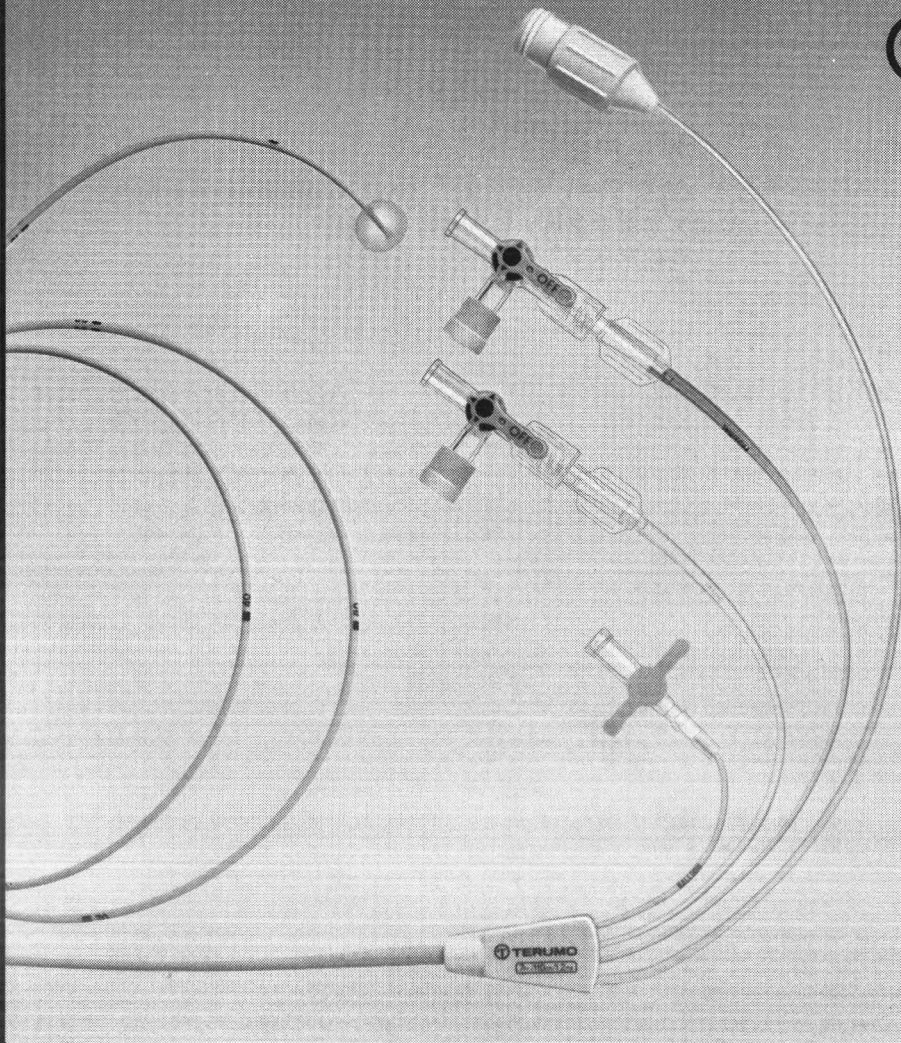
従来は殆どのカテーテルが輸入品であり7Frを標準としている。しかし、欧米人に比較して体格の小さい日本人では、7Frのサーモダイリユーシオンカテーテルを使用すると、サーミスタやインジェクション用の側孔の位置が適切でなく、測定値に誤差を生じる場合が多い。身長160cm前後以下のような症例では、テルモ・コモカーディオTDカテーテルの6Fr（25cm側孔）がサイズとして至適である。

コモカーディオTDカテーテルは6Frのほか、5Fr、7Fr、7.5Frと他のサイズも揃え、それぞれに長期留置にも対応できるようなヘパリンコーティングが施されている。7.5Frにはカテーテル留置中の輸液療法に利用できるルーメンを持った5ルーメンのタイプもあり、ことに中心静脈からの投与が望ましい血管作動薬の持続投与などに有利である。カテーテルの先端はバルーンを萎めた状態でカテーテル部の径とバルーン部の径が同じになるように作られており、挿入時のバルーンの破損が防げ、カテーテルと同じサイズのシースイントロドューサーを使用できるようになっている。

カテーテルの物性は、挿入から留置までの操作がスムーズに行えるような適度な固さであり、カテーテルの深度マークは数字によって挿入深さが表示されているので分かりやすい。また、それぞれのルーメンの延長チューブの末端が徐々に太くなっているためチューブの折れないことも使いやすさの一つといえよう。

心臓カテーテルは上手に利用すれば、手術室、ICUでの重篤な患者の管理に非常に有益な情報をもたらすが、侵襲的なモニタリングであることも事実である。適応を考えるとともに、モニタリングを行う以上、より侵襲が少なく簡単に挿入でき、精度の高いものを選択すべきである。また長期留置の際には、血栓に対する考慮がなされているカテーテルを使用すべきである。

順天堂大学医学部麻酔学教室
新見能成



国産初のサーモダイリューションカテーテル。 その優れた機能と操作性には理由があります。

- バルーン部とカテーテル先端部の径が同一ですので挿入時のバルーン破損が防止できます。また、カテーテルと同サイズのシースイントロドューサーへの挿入が可能です。
- 三方活栓が包装内に2個セットされていますので、三方活栓を準備する手間が省けます。
- 挿入深度が一目で確認できる目盛付きです。
- 各社の心拍量測定装置に使用できます。
- カテーテルの長期留置に対応すべく、ヘパリンコーティング品も揃えています。

コモカードィオ[®] TDカテーテル COMOCARDIO[®] TD Catheter

テルモ株式会社 〒151 東京都渋谷区幡ヶ谷2-44-1

①、テルモ、TERUMO、コモカードィオ、COMOCARDIOはテルモ株式会社の登録商標です。

承認番号:コモカードィオTDカテーテル(62B-544)

コモカードィオTDカテーテル(ヘパリンコーティング)(1B-1411)